

令和7年度

学校自己評価システムシート

（さいたま市立大原中学校）

学校番号 209

【様式】

学 校 教 育 目 標	Brand new Smile！キーワードは「笑利！」と「求利！」＝はつらつとした生徒、地域に輝く学校＝
目 指 す 学 校 像	・希望の登校　・笑顔の活動　・満足の下校
重 点 目 標	未来の創り手として、笑顔で人と関わり、探究的な視野で将来を捉え、地域を支える一因として、主体的に貢献していこうとする心の育成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	（現状） ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、どの教科も良好な結果である。 （課題等） ○主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を図り、「未来創造」をコンセプトとし、生徒が自ら「Oから1を創り出す」教育の具現化を図るとともに、教職員も教師主導型の授業から生徒主体の授業への意識改革を促していく。	・教育DXで実現させる学びの自律と個別最適な学び、探究化に、情報端末の活用を含んだ授業改善	・ICTを活用した学習支援のあり方を検討し、さらなる学力向上につとめていく。 ・全国学力・学習状況調査について、生徒が自己採点を行い、早期に生徒自らが学習状況を把握できるようにする。	・アンケートにおいてPCの活用率が前年度に比べ上がったと回答した生徒、教員の割合が85%以上を達成することができたか。 ・全国学力・学習状況調査の結果分析を教職員全体が組織として行い、教職員アンケートにおいて「今後の指導に役立った」など肯定的な回答が90%以上を達成したか。					
		・「未来創造型授業」をコンセプトとした学習者を主体とした探究的な授業実践をとおして、生徒の興味関心を引き出していく。	・本校「未来創造型授業」をGIGAスクール構想と関連付け、探究的な学びとして実施する。 ・「未来創造型授業」を、教職員と生徒がともに学び、試行錯誤しながら今日的な課題解決を目指す展開を行う。 ・7月実施の研究発表の取組を通して教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に教職員一丸となって取り組む。	・年度末の教職員アンケートにおいて、「未来創造型授業」の実施において、「生徒ともに探究的な学びを実践できた」等肯定的な回答の割合が85%以上になったか ・「未来創造型授業」について研修する機会を設定することができたか。 ・昨年度比較し、研究発表に関する成果アンケートの肯定的な回答が90%以上を達成できたか。					
2	（現状） ○昨年度よりスタートした「未来創造プロジェクト」により、生徒が主体となった制服の変更及び校則の改訂ができた。 ○令和6年度学校評価：生徒「目標をもって生活している」A評価40.0%、「あいさつをすることは重要だと感じている」A評価71.2% ○令和6年度学校評価：生徒「学校は悩みやトラブルに十分対応してくれる」A評価47.2%、保護者「学校は、生徒一人ひとりを大切にし、尊重しながら教育活動に取り組んでいる。」A評価23.1% ○生徒指導や教育相談に関する対応について、組織で対応することができている。 （課題） ○進路に対して高校進学後の具体的な目標がもてない。 ○配慮を要する生徒個々への対応と個を認め合う環境の情勢。 ○個に応じた支援や相談体制のより一層の確立。	・エージェンシーを発揮し、夢に向かって活躍する生徒の育成	・将来の社会的・職業的自立に向けた必要な基盤となる能力や態度を、領域のみならず、教科横断的計画し、キャリア教育を進めていく。	・学校評価で生徒の「目標をもって生活している」A評価が50%以上になったか。 ・学校評価で保護者の「学校は、生徒一人ひとりを大切にし、尊重しながら教育活動に取り組んでいる。」A評価が40%を上回ったか。					
		・積極的で、きめ細かな生徒指導の推進・教育相談の充実	・生徒の個性を尊重し、個に応じた適切な指導と配慮を要する生徒への最適な支援をしていく。（スクールダッシュボードの活用） ・積極的な生徒指導体制と誰一人取り残さない教育相談体制（Sola る一む、さわやか相談室、関係諸機関との連携）の充実。	・生徒一人ひとりを大切にし、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に組織的に対応できたか。 ・学校評価（生徒・保護者）「いじめやその他の相談等」に関する項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。					
3	（現状） ○学校地域連携コーディネーターを中心に、地域住民等の参画を得て、チャレンジスクールが運営できている。 ○地域交流室が開室し、地域へのボランティア交流等の窓口として機能している。 （課題） ○保護者からの視点では、生徒が地域に関心を持ったり生徒自身ができることを考えたりすることの意識が低いと感じている。（学校評価：A評価20.8%） ○保護者の学校評価「学校は、生徒たちの様子や必要な情報を保護者に適切に伝えている」におけるA評価が24.7%であり、必要な情報が適切に入っていないと思われる	・学校運営協議会を軸にした地域と連携した教育活動の展開	・生徒を地域の行事や活動にボランティアとして積極的に派遣し地域とのかかわりをより多く、強くする。 ・「フィールドワーク」や「未来くるワーク体験」、地域の人材を活用した「未来くる先生」を通して、地域の人と関わりを深くする。	・地域活動やボランティア活動等で、生徒が主体的に参加できる機会を設定できたか。 ・学校評価で生徒の「学校は、様々な活動を通じて、地域に輝く学校になりつつある」に関する項目、保護者の「学校は様々な活動を通して、地域に親しまれる学校になりつつある」におけるA評価が50%を上回ったか。					
		・開かれた学校づくりの推進	・保護者・地域に向けて、教育活動の参観、公開を多く設定する ・学校HPや保護者への通信アプリを活用し、最新情報の提供に努める。	・毎学期、保護者の来校機会を多く設定できたか。 ・学校評価（保護者）「学校からの情報発信」でA評価が昨年度を上回ったか。					
4	（現状） ○教育DX推進本部と学習部が中心になり、情報端末をはじめとしたICT活用方法について、研修を進めている。 （課題等） ○教職員用PCを含むICTの活用について、より一層の教員研修が求められる。校内研修を計画的に位置づけ、ICT活用の研修を進めていく。 （課題等） ○教職員用PCを含むICTの活用よる、生徒主体の授業への改善が更に求められる。校内研修を計画的に位置づけ、ICT活用の研修を進めていく。	・授業力向上を図るための学び合い、高め合いを実施する	・教員一人ひとりが年間を通して取り組む授業力向上のテーマを設定し、授業を公開する。 ・各自の授業力向上の取組に関する資料を他の職員に広報する。 ・ICT活用の研修を行う。	・全教員が、年間を通して取り組む授業力向上のテーマを設定することができたか。 ・全教員が、授業を公開することができたか ・ICTの活用について研修を複数行うことができたか。 ・学習評価の研修会を実施し、肯定的な評価が90%以上にする事ができたか。					
		・授業力向上を図るための学び合い、高め合いを実施する	・教員一人ひとりが年間を通して取り組む授業力向上のテーマを設定する。 ・全教員が、年1回以上授業を公開する。 ・ICT活用の研修を行う。	・全教員が、年間を通して取り組む授業力向上のテーマを設定することができたか。 ・全教員が、授業を公開することができたか ・学習評価の研修会を実施し、肯定的な評価が90%以上にする事ができたか。					
5	（現状） ○教職員学校の平均年齢（37.93歳）、キャリア平均（9.6年）とどちらも比較的若く、今年度初担任が4名いる。 ○教科指導、部活動指導等で実績のある教職員が複数人在籍している。 （課題） ○全教職員で取り組む学校課題研究等での新たな学び合いと教職員の資質・組織力の向上。 ○キャリア年数の少ない教員への指導法の継承。 ○働き方改革をさらに推進し、教職員の負担感の減少。	・指導力を持ち、信頼関係を基盤にした教育活動に取り組む教職員の資質向上	・若手教職員を積極的に外の研修会に派遣し、他校、他自治体の実践を学ばせる。 ・若手とベテランを組ませる機会を多く設け、スキルの継承を図る。 ・在校時間システムの集計結果を基に月ごとの仕事量を振り返り、計画的かつ健康的に仕事に取り組む。	・講師を招聘した研修を実施することで、今後の指導に生かすことができたか。 ・学校評価（教職員）「校内研修」「目指す教師像」の項目でA評価が昨年度（45%）を上回ったか。 ・学校評価（教職員）「業務改善」の項目で、A評価が昨年度を上回ったか。					

令和6年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 大原中学校）

学校番号 209

【様式】

目指す学校像

魅力発信！大原中 ～生徒が、希望をもって登校し、笑顔で活動し、満足して下校する学校～

重点目標

1「さいたま市GIGAスクール構想」の推進と「主体的で、対話的で深い学び」の視点からの授業改善

2安心・安全な学校に向けた組織的な生徒指導、教育相談体制の充実

3地域とともにある学校づくりの推進

4生徒の夢の実現を支援できる教職員（教職員研修の充実）

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度

達成Aほぼ達成（8割以上）

達成B概ね達成（6割以上）

達成C変化の兆し（4割以上）

達成D不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和7年2月17日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、どの教科も良好な結果である。 (課題等) ○主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を図り、教科部会の充実を図るとともに、GIGAスクール構想によるタブレットPCを効果的に活用し、「わかる授業」の実践を積み上げ、真の学力の定着を図る。	・教育DXで実現させる学びの自律と個別最適な学び、探究化に、情報端末の活用を含んだ授業改善	・ICTを活用した学習支援のあり方を検討し、さらなる学力向上につとめていく。 ・全国学力・学習状況調査について、生徒が自己採点を行い、早期に生徒自らが学習状況を把握できるようにする。	・アンケートにおいてPCの活用率が前年度に比べ上がったと回答した生徒、教員の割合が85%以上を達成することができたか。 ・全国学力・学習状況調査の結果分析を教職員全体が組織として行い、教職員アンケートにおいて「今後の指導に役立った」など肯定的な回答が90%以上を達成したか。	・PCの活用率が前年度に比べて上がったと感じている生徒は90%以上だったが、教員は、一昨年から急激に活用率が高まっているため、本年度は87%にとどまった。 ・全国学力・学習状況調査の結果分析について、市教委指導主事からオンラインで、成果と課題について教職員全体にご指導いただくことができた。	A	・ICTを活用した学習支援やスタサブのより一層の活用に向けて実施・検討していくことや全国学力学習状況調査の分析を、普段の学習でどのように生かしていくか、各教科等での検討をより一層行っていく。 ・市教委指導主事を今後も招聘し、様々な角度からの分析と生徒へのアプローチを考え、実践していく。
		・「STEAMS TIME」を含めて教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成において、生徒の興味関心を大切にしたものにしていく。	・本校「STEAMS TIME」をGIGAスクール構想と関連付け、探究的な学びとして実施する。 ・「STEAMS TIME」を、教職員と生徒がともに学び、試行錯誤しながら今日的な課題解決を目指す展開を行う。 ・7月実施の研究発表の取組を通して教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に教職員一丸となって取り組む。	・年度末の教職員アンケートにおいて、「STEAMS TIME」の実施において、「生徒とともに探究的な学びを実践できた」等肯定的な回答の割合が85%以上になったか ・「STEAMS TIME」について研修する機会を設定することができたか。 ・昨年度比較し、研究発表に関する成果アンケートの肯定的な回答が90%以上を達成できたか。	・教職員アンケートでは、「STEAMS TIME」等の指導法の研究について肯定的な回答の割合が83%だった。 ・「STEAMS TIME」について教職員研修を行うことができ、各教科ではぐくんだ資質・能力を活用しながら課題を解決する授業構築に役立てることができた。 ・校内研修実施に関して肯定的な回答が81%で前年度の97%を下回った。		・「さいたま STEAMS 教育」の目的の実現のため、教科等横断的な視点に立った研究を今後も継続していく。 ・他の学校の「STEAMS TIME」事例を今後も収集し、迅速に実施していく。 ・定期的に「STEAMS TIME」について推進委員会を設定し、全体研修会の実施を通して生徒にとって「STEAMS TIME」をより一層充実した時間となるようにしていく。 ・指導主事を招聘し「STEAMS TIME」について研修する機会を設定していく。
2	(現状) ○安全教育における訓練は概ね真剣に取り組んでいる。また、訓練だけでなく校内における安全対策を進めることができている。 ○定期安全点検を通して修繕箇所等を早期に発見し、改善を進めている。 (課題等) ○教職員の毎月の施設設備等安全点検を確実に実施するとともに、生徒自らが危険を予測し、回避する力を育成していく。 ○コロナ禍において、ストレスを感じている生徒も多いことが予想される。今後も生徒一人ひとりの状況を的確に把握していく体制を構築していく。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	・教育支援・相談に係る校内委員会を定期的に開催し情報共有を行っていく。 ・生徒対象のアンケートや面談等を定期的に実施し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握し、組織的な対応を行う。	・教育支援・相談に係る校内委員会を定期的に開催できたか。（年間30回以上開催できたか。） ・年度末の教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合を90%以上になったか。 ・年度末の生徒や保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上になったか。	・教育相談部会を1月末現在で28回実施し、年度末には目標値30回を上回る予定である。 ・教職員アンケートにおいて「教育相談体制の機能を果たしたか」等が89%で前年度の94%を下回った。 ・生徒アンケートでは、悩みの対応で94.2%と昨年度の82%を大きく上回ったが、保護者アンケートでは、70.6%で昨年度の72%を下回った。	A	・今後も定期的に教育相談部会を開催する。 ・“鋭敏な感覚、的確な判断、迅速な行動”をより一層全教職員に意識させて、組織的な教育相談体制の構築に邁進していく。 ・来年度新たに学校経営の重点に「Well-beingを意識した学校生活の推進」をどの教育活動でも実践できるように管理職が全教職員に指導助言支援を行っていく。
		・教職員・生徒ともに安全で安心できる人的・物理的な危機管理意識を高める。	・教職員の支援のもと安全についての取組を生徒会主体に運営していく。その中で安全な生活の実現に向けた取組を生み出していく。	・避難訓練等を計画的に実施でき、教職員アンケートにおいて、安全に関する項目の肯定的な回答の割合が85%以上になったか。 ・年度末の生徒や保護者アンケートにおいて、「安全について」等関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上になったか。	・計画的な避難訓練を実施できている。教職員アンケートでは、安全について肯定的な回答が97%越えている。特に今年度は昨年度まで実施できなかった集団下校訓練を行うことができた。 ・生徒アンケートでは95%を越え目標値を達成できた。保護者アンケートでは、72%だった。		・学校安全について今後も学校保健、生徒指導など様々な関連領域と連携して取り組み、安全教育、安全管理を相互に関連付けて、組織的に行っていく。また、来年度は下校訓練を近隣の小学校と合同で行えるよう日程調整を行った。
3	(現状) ○学校地域連携コーディネーターを中心に、地域住民等の参画を得て、チャレンジスクールが運営できている。 ○学校運営協議会が昨年度立ち上がり、定期的な開催ができている。 (課題等) ○学校運営協議会において、目指す生徒の姿について熟議を積み重ねたり、自らの課題を見出したりし、協働して育成する生徒について地域全体で育てていくことを共有していく。 ○学校運営協議会で熟議された内容の周知を具体的な取組の実践を通して、地域とともにある学校づくりを進めていく。	・「さいたま市コミュニティ・スクール成長モデル」を指針として、本校のコミュニティ・スクールの運営に努める。	・チャレンジスクールを通じた学びの輪の充実を図る。そのために、放課後等に学校等を活用し、学校地域連携コーディネーターを中心に、地域住民等の参画を得て、チャレンジスクールを引き続き推進していく。 ・学校運営協議会において「さいたま市コミュニティ・スクール成長モデル」を周知し、CSの理解を深める。	・チャレンジスクールの実施回数を昨年度と比較して増やすことができたか。 ・教職員の年度末のアンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す生徒像を共有できた」等肯定的な割合が80%以上となったか。	・チャレンジスクールの実施回数は、33回(R5)から35回(R6)に増加した。 ・教職員アンケートでは、教職員自身のコミュニティスクールの一員として地域との連携において肯定的な回答が83%で、昨年度の73%を大きく上回った。	A	・生徒のニーズに合わせ今後も運営計画を検討し、充実したチャレンジスクール実施を行っていく。 ・充実した学校運営協議会になるように、今後も熟議の内容や議題を委員の皆さんと考え実施していく。
		・本校の教育活動等を積極的に情報発信し、保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。	・本校の教育活動をHPや学校だよりを通じて適宜情報発信する。	・本校の教育活動をHPや学校だより等を通じて、定期的に情報発信できたか。 ・年度末のアンケートにおいて、保護者・地域・学校との協働や生徒の自律につながる取組の実施等について肯定的な回答の割合が90%以上になったか。	・本校教育活動について、生徒会活動、部活動、儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事など、様々な形で情報を発信することができている。 ・生徒の自律に深く関係する教育活動である特別活動において、教職員アンケートでは91%～100%の肯定的な回答になった。		・今後もHPや通知等を通して、定期的に情報発信を続けていく。 ・今後より一層、生徒が地域への行事等参加する気運を高めていく。そのため、地域との連携を学校運営委員とともに密にし、学校教育目標である「地域に輝く学校」づくりに努めていく。
4	(現状) ○エバンジェリストが中心になり、情報端末をはじめとしたICT活用方法について、研修を進めてきた。 (課題等) ○教職員用PCを含むICTの活用について、より一層の教員研修が求められる。校内研修を計画的に位置づけ、ICT活用の研修を進めていく。	・授業力向上を図るための学び合い、高め合いを実施する	・教員一人ひとりが年間を通して取り組む授業力向上のテーマを設定し、授業を公開する。 ・各自の授業力向上の取組に関する資料を他の職員に広報する。 ・ICT活用の研修を行う。	・全教員が、年間を通して取り組む授業力向上のテーマを設定することができたか。 ・全教員が、授業を公開することができたか ・ICTの活用について研修を複数行うことができたか。 ・学習評価の研修会を実施し、肯定的な評価が90%以上にすることができたか。	・「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成についての研究」を計画的・組織的に進めることができ全教員が1回以上授業を公開した。 ・NIE教育について計画的に研究を進め、次年度への方向性を見出すことができた。 ・ICTの活用についての研修会を複数回実施することができた。 ・年度初めに、より深く様々な事例をもとに学習評価研修会を実施することができた。（肯定的な評価94%）	B	・今年度の市教委指定「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成についての研究」の成果と課題を今後も引継ぎ、教職員一人ひとりの授業力向上に取り組むとともに、教科等横断的な視点を意識し、授業の充実につなげていく。 ・ICT活用の研修を今後も取り入れ、授業での積極的活用をすすめていく。